Sub Title Research on the social history of retails and artisans' guilds in the pre-modern Ottoman Empire							
### Author		前近代オスマン帝国の商工民・同職組合に関する社会史的研究					
Publisher 要應義塾大学 Publication year 2020 Jittle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.) Jat.C DOI Abstract 3年計画である本研究の目的は、近世オスマン帝国都市の商工民・同職組合の実態を解明し、社会史的検討を加えることである。3年目となる今年度は遺産目録史料の分析に重点をおいた。近世オスマン帝国都市の商工民・同職組合に関する近年の研究では、組合成員や商工民個人の実態解明が重要な課題のとってある。同職組合の組織や制度に主眼を置きつつその資格性を強調する傾向にあった従来の見方を無限計する試成として、商工民の生活や記句・たきれてきている。遺産目録はそうした課題の声脈に必要不可欠な史料である。こうした研究の現代と課題を開まえ、以下のような分析・検討を行った。まず未公刊史料であるイスタンブル・アスケリー大選487台帳の内容を分析し、この台帳に少なくとも45人の商工民に関する遺産目録で取金されている。遺産目録が収金されている事業を明らかにした。それらのなかから皮積でブラにん、ピン・アリーに関する1781年12月24日付の遺産目録に着目し、関連する4件の裁判記録と合わせてより詳細な分析を試めた。そこではこの皮解工の遺産目録に無限の過程を明らかにしつへ、経済活動や家族・裁族関係、同業者との関係を中心定に、その生活について可能な限り検討を行った。こうした分析と検討の結果、以下の点が明らかとなった。皮鞣エイブラヒムの死亡時の財産は上記45人の商工民の5か12番目と多く、また掛け取引や従業の雇用、多数の産の所有といった生前の形跡がみられた。このことから彼が経済的にある程度余裕のある富裕な商工民であったと考えられる。ただし、その背景には同業者の相互状助や社会的結合がみられた。現族が否かを問わず多数の皮壁が立り遺言指定制入や代理人、証言者などとしてイブラヒムの遺産相続に関わっており、私生活における同業者の相互状助や社会的結合がみられた。The present research is the three-year plan. The aim is to study the social history of the retailaritisans and the guilds in the early-modern ottoman cities. In this final year of the plan, the analysis of inheritance records are a essential historical resource to resolve the question mentioned above. This study made some examination as follows. Firstly the Istanbul Askeri court register numbered 487 was analyzed. This revealed that inheritance records of a least forty five retail-artisans vived in the resisters. Secondative, of the plan, the analysis in inheritance and the progress of the succession was revealed, and his economic and social life was examined, especially his business, the structure of his family and his relationship to the guild members.							
### Publication year Jittle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.) Abstract							
Jalic DOI Abstract Sample	Publisher						
Jalc DOI Abstract 3年計画である本研究の目的は、近世オスマン帝国都市の商工民・同職組合の実態を解明し、社会史的検討を加えることである。3年目となる今年度は遺産目録史料の分析に重点をおいた。近世オスマン帝国都市の商工民・同職組合に関する近年の研究では、組合成員や商工民個人の実態解明が重要な課題のひとつである。同職組合の組織や制度に主眼を置きつつその厳格性を強調する傾向にあった従来の見方を再検討する説みとして、商工民の生活や活動のほか、同業者間の経営・経済格差、特定業種に従事する商工民家系などの実態が徐々に明らかにされてきている。遺産目録はそうした課題の克服に必要不可欠な史料である。こうした研究の現状と課題を踏まえ、以下のような分析・検討を行った。まず未公刊史料であるイスタンブル・アスケリー法廷487台帳の内容を分析し、この台帳に少なくとも45人の商工民に関する遺産目録が収載されている事実を明らかにした。それらのなかりら皮鞣エイブラヒム・ビン・アリーに関する1781年12月24日付の遺産目録に着目し、関連する4件の裁判記録と合わせてより詳細な分析を試みた。そこではこの皮鞣工の遺産の実態や相続の過程を明らかにしつつ、経済活動や家族・親族関係、同業者との関係を中心に、その生活について可能な限り検討を行った。こうした分析と検討の結果、以下の点が明らかとなった。皮鞣エイブラヒムの死亡時の財産は上記45人の商工民のうち12番目に多く、また掛け取引や従業員の雇用、多数の金貨の所有といった生前の形跡があられた。このことから彼が経済的にある程度余栄の高格な商工民であったと考えられる。ただし、その背景には同業者である義理の兄弟による経済的支援があった。また、親族が否かを問わず多数の皮鞣工が遺言指定管財人や代理人、証言者などとしてイブラヒムの遺産相続に関わっており、私生活における同業者の相互共助や社会的活みられた。 The present research is the three-year plan. The aim is to study the social history of the retailartisans and the guilds in the early-modern ottoman cities. In this final year of the plan, the analysis of inheritance records was focused on. In the recent researches, how guild members or retail-artisans lived has been an important question. To reexamine the view which has emphasised on the importance of the organization and institution of guilds, researchers have revealed retail-artisans' lives, management and economic differentiation among guild members or retail-artisans lived has been an important question. To retail and some guild members and families succeeding to the same profession. Inheritance records are a essential historical resource to resolve the question mentioned above. This study made some examination as follows. Firstly the Istanbul Askeri court register numbered 487 was analyzed. This revealed that inheritance records of at least forty five retail-artisans were involved in the resister. Secondarily, of the forty five records, one of Ibrahim bin Ali tanner on December 24, 1781 was analyzed in more detail, with four judicial records. Through the analysis, his inheritance and the progress	Publication year	2020					
Abstract 3年計画である本研究の目的は、近世オスマン帝国都市の商工民・同職組合の実態を解明し、社会 史的検討を加えることである。3年目となる今年度は遺産目録史料の分析に重点をおいた。 近世オスマン帝国都市の南工民・同職組合に関する近年の研究では、組合成員や商工民個人の実 態解明が重要な課題のひとつである。同職組合の組織や制度に主眼を置きつつその厳格性を強調 する傾向にあった従来の見方を再検討する試みとして、南工民の生活や活動のほか、同業者間の 経営・経済格差、特定業権に従事する商工民家系などの実態が徐々に明らかにされてきている。 遺産目録はそうした課題の克服に必要不可欠な史料である。 こうした研究の現状と課題を踏まえ、以下のような分析・検討を行った。まず未公刊史料である イスタンブル・アスケリー法は487も帳の内容を分析し、この台帳に少なくとも45人の商工民に関 する遺産目録が収載されている事実を明らかにした。それらのなかから皮鞣エイブラヒム・ビン・アリーに関する1781年12月24日付の遺産目録に着目し、関連する4件の裁判記録と合わせてよ リ詳細な分析を試みた。そこではこの皮軽工の遺産の実態や相続の過程を明らかにしつつ、経済 活動や家族・親族関係、同業者との関係を中心に、その生活について可能な限り検討を行った。 こうした分析と検討の結果、以下の点が明らかとなった。皮軽エイブラヒムの元亡時の財産は上 記45人の商工民を関うために対しての主なとの表達に多く、また掛け取引や従業員の雇用、多数の金貨の所有といった 生前の形跡がみられた。このことから彼が経済的にある程度余裕のある富裕な商工民であった。生 考えられる。ただし、その背景には同業者である義理の兄弟による経済的支援があった。また、親族か否かを問わず多数の皮鞣エが遺言指定管財、や代理人、証言者などとしてイブラヒムの遺産相続に関わっており、私生活における同業者の相互扶助や社会的結合がみられた。 The present research is the three-year plan. The aim is to study the social history of the retail- artisans and the guilds in the early-modern ottoman cities. In this final year of the plan, the analysis of inheritance records was focused on. In the recent researches, how guild members or retail-artisans lived has been an important question. To reexamine the view which has emphasised on the importance of the organization and institution of guilds, researchers have revealed retail-artisans! lived has been an important question. To reexamine the view which has emphasised on the importance of the organization and institution of guilds, researchers have revealed retail-artisans! lived has been an important question. To reexamine the view which has emphasised on the importance of the organization and institution of guilds, researchers have revealed retail-artisans! lived has been an important question. To reexamine the view which has emphasised on the importance of the organization and institution of guilds, researchers have revealed that inheritance records of at least forty five retail-artisans were involved in the resister. Secondarily, of the forty five records, one of librahim bin Ali	Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)					
史的検討を加えることである。3年目となる今年度は遺産目録史料の分析に重点をおいた。 近世オスマン帝国都市の商工民・同職組合に関する近年の研究では、組合成員や商工民個人の実態解明が重要な課題のひとつである。同職組合の組織や制度に主態を置きつつその厳格性を強調する傾向にあった従来の見方を再検討する試みとして、商工民の生活や活動のほか、同業者間の経営・経済格差、特定業種に従事する商工民家系などの実態が徐々に明らかにされてきている。遺産目録はそうした課題の克服に必要不可欠な史料である。こうした研究の現状と課題を踏まえ、以下のような分析・検討を行った。まず未公刊史料であるイスタンブル・アスケリー法廷487台帳の内容を分析し、この台帳に少なくとも45人の商工民に関する遺産目録が収載されている事実を明らかにした。それらのなかから皮鞣エイブラヒム・ビン・アリーに関する1781年12月24日付の遺産目録に着目し、関連する4件の裁判記録と合わせてより詳細な分析を試みた。そこではこの皮軽工の遺産の実態や相続の過程を明らかにしつつ、経済活動や家族・親族関係、同業者との関係を中心に、その生活について可能な限り検討を行った。こうした分析と検討の結果、以下の点が明らかとなった。皮軽エグラーといの死亡時の財産は上記45人の商工民のうち12番目に多く、また掛け取引や従業員の雇用、多数の金貨の所有といった生前の形跡がみられた。このことから彼が経済的にある程度余裕のある富裕な商工民であったと考えられる。ただし、その背景には同業者である義理の兄弟による経済的支援があった。また、親族か否かを問わず多数の皮軽エが通言を関すいた視し、配手を持ている。これでは、大作理人、証す者ととしてイブラヒの遺産相続に関わっており、私生活における同業者の相互扶助や社会的結合がみられた。 The present research is the three-year plan. The aim is to study the social history of the retailaritisans and the guilds in the early-modern ottoman cities. In this final year of the plan, the analysis of inheritance records was focused on. In the recent researches, how guild members or retail-artisans lived has been an important question. To reexamine the view which has emphasised on the importance of the organization and institution of guilds, researchers have revealed retail-artisans lives, management and economic differentiation among guild members and families succeeding to the same profession. Inheritance records are a essential historical resource to resolve the question mentioned above. This study made some examination as follows. Firstly the Istanbul Askeri court register numbered 487 was analyzed. This revealed that inheritance records of at least forty five retail-artisans were involved in the resister. Secondarily, of the forty five records, one of Ibrahim bin Ali tanner on December 24, 1781 was analyzed in more detail, with four judicial records. Through the analysis, his inheritance and the progress of the succession was revealed, and his economic and social life was examined, especially his business, the structure of his family an	JaLC DOI						
Genre Research Paper	Abstract	近世オスマン帝国都市の商工民・同職組合に関する近年の研究では、組合成員や商工民個人の実態解明が重要な課題のひとつである。同職組合の組織や制度に主眼を置きつつその厳格性を強調する傾向にあった従来の見方を再検討する試みとして、商工民の生活や活動のほか、同業者間の経営・経済格差、特定業種に従事する商工民家系などの実態が徐々に明らかにされてきている。遺産目録はそうした課題の克服に必要不可欠な史料である。こうした研究の現状と課題を踏まえ、以下のような分析・検討を行った。まず未公刊史料であるイスタンブル・アスケリー法廷487台帳の内容を分析し、この台帳に少なくとも45人の商工民に関する遺産目録が収載されている事実を明らかにした。それらのなかから皮鞣エイブラヒム・ビン・アリーに関する1781年12月24日付の遺産目録に着目し、関連する4件の裁判記録と合わせてより詳細な分析を試みた。そこではこの皮鞣工の遺産の実態や相続の過程を明らかにしつつ、経済活動や家族・親族関係、同業者との関係を中心に、その生活について可能な限り検討を行った。こうした分析と検討の結果、以下の点が明らかとなった。皮鞣エイブラヒムの死亡時の財産は上記45人の商工民のうち12番目に多く、また掛け取引や従業員の雇用、多数の金貨の所有といった生前の形跡がみられた。このことから彼が経済的にある程度余裕のある富裕な商工民であったと考えられる。ただし、その背景には同業者である義理の兄弟による経済的支援があった。また、親族か否かを問わず多数の皮鞣工が遺言指定管財人や代理人、証言者などとしてイブラヒムの遺産相続に関わっており、私生活における同業者の相互扶助や社会的結合がみられた。The present research is the three-year plan. The aim is to study the social history of the retailartisans and the guilds in the early-modern ottoman cities. In this final year of the plan, the analysis of inheritance records was focused on. In the recent researches, how guild members or retail-artisans lived has been an important question. To reexamine the view which has emphasised on the importance of the organization and institution of guilds, researchers have revealed retail-artisans lived has been an important question. To reexamine the view which has emphasised on the importance of the organization and institution of guilds, researchers have revealed retail-artisans lived has been an important question. To reexamine the view which has emphasised on the importance of the organization and institution of guilds, researchers have revealed retail-artisans lived has been an important question. To reexamine the view which has emphasised on the importance of the organization and institution of guilds, researchers have revealed retail-artisans lived has been an important question. To reexamine the view which has emphasized on the importance of the organization and institution of guilds, researchers have revealed retail-artisans lived, and his economic and social life was analyzed. This revealed that inh					
	Notes						
	Genre	Research Paper					
		·					

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2019 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	文学部	職名	准教授	一補助額	200	(B)	千円
	氏名	藤木 健二	氏名(英語)	Kenji Fujiki		200	(D)	ТП

研究課題 (日本語)

前近代オスマン帝国の商工民・同職組合に関する社会史的研究

研究課題 (英訳)

Research on the Social History of Retails and Artisans' Guilds in the Pre-Modern Ottoman Empire

1. 研究成果実績の概要

3年計画である本研究の目的は、近世オスマン帝国都市の商工民・同職組合の実態を解明し、社会史的検討を加えることである。3年目となる今年度は遺産目録史料の分析に重点をおいた。

近世オスマン帝国都市の商工民・同職組合に関する近年の研究では、組合成員や商工民個人の実態解明が重要な課題のひとつである。同職組合の組織や制度に主眼を置きつつその厳格性を強調する傾向にあった従来の見方を再検討する試みとして、商工民の生活や活動のほか、同業者間の経営・経済格差、特定業種に従事する商工民家系などの実態が徐々に明らかにされてきている。遺産目録はそうした課題の克服に必要不可欠な史料である。

こうした研究の現状と課題を踏まえ、以下のような分析・検討を行った。まず未公刊史料であるイスタンブル・アスケリー法廷 487 台帳の内容を分析し、この台帳に少なくとも 45 人の商工民に関する遺産目録が収載されている事実を明らかにした。それらのなかから皮鞣エイブラヒム・ビン・アリーに関する 1781 年 12 月 24 日付の遺産目録に着目し、関連する 4 件の裁判記録と合わせてより詳細な分析を試みた。そこではこの皮鞣工の遺産の実態や相続の過程を明らかにしつつ、経済活動や家族・親族関係、同業者との関係を中心に、その生活について可能な限り検討を行った。

こうした分析と検討の結果、以下の点が明らかとなった。皮鞣エイブラヒムの死亡時の財産は上記 45 人の商工民のうち 12 番目に多く、また掛け取引や従業員の雇用、多数の金貨の所有といった生前の形跡がみられた。このことから彼が経済的にある程度余裕のある富裕な商工民であったと考えられる。ただし、その背景には同業者である義理の兄弟による経済的支援があった。また、親族か否かを問わず多数の皮鞣工が遺言指定管財人や代理人、証言者などとしてイブラヒムの遺産相続に関わっており、私生活における同業者の相互扶助や社会的結合がみられた。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

The present research is the three-year plan. The aim is to study the social history of the retail-artisans and the guilds in the early-modern ottoman cities. In this final year of the plan, the analysis of inheritance records was focused on.

In the recent researches, how guild members or retail-artisans lived has been an important question.

To reexamine the view which has emphasised on the importance of the organization and institution of guilds, researchers have revealed retail-artisans' lives, management and economic differentiation among guild members, and families succeeding to the same profession. Inheritance records are a essential historical resource to resolve the question mentioned above.

This study made some examination as follows. Firstly the İstanbul Askeri court register numbered 487 was analyzed. This revealed that inheritance records of at least forty five retail-artisans were involved in the resister. Secondarily, of the forty five records, one of İbrahim bin Ali tanner on December 24, 1781 was analyzed in more detail, with four judicial records. Through the analysis, his inheritance and the progress of the succession was revealed, and his economic and social life was examined, especially his business, the structure of his family and his relationship to the guild members.

3. 本研究課題に関する発表							
発表者氏名 (著者・講演者) 発表課題名 (著書名・演題)		発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)				
藤木健二	ー八世紀イスタンブルにおける皮 鞣エイブラヒムの遺産とその相続	史学	2020年5月				